

病院薬剤師さんのための情報誌

Vol.68



パレット

Palette

パレットの上でさまざまな色を
調和させていくように
薬剤師さんにとっての理想の姿
求めている色をつくりだすための
お手伝いができたら…
そんな願いをこめてお届けします。



- 特集一 医療の質向上と薬剤業務
**カテーテルロックに関する
安全対策について**
～札幌医科大学附属病院における取組み～
- フェイス&フェイス
医療法人渡辺会 大洗海岸病院
- トピックス
がん専門薬剤師研修施設での研修生受入れについて
- KYTシート ラインナップのご紹介
- Otsuka Information
- 情報キャンバス

現場での連携による創意工夫が 生きたリスクマネジメントになる

薬剤部・薬局訪問 第68回 医療法人渡辺会 大洗海岸病院



【医療法人渡辺会 大洗海岸病院】
茨城県東茨城郡大洗町大貫町915

- 病床数：177床
- 外来患者数：1日平均441人
- 外来患者への処方箋発行枚数：1日平均236枚
院外処方箋発行率：約96%
- 薬剤師数：6名

〈平成20年6月現在〉

大洗海岸病院は、1936年（昭和11年）、水戸市にあった渡辺内科病院（のちの国立水戸病院）の分院「大貫サナトリウム」として設立されました。1957年の現病院名への改称を経て、70年以上にわたり、地域医療に貢献しています。薬剤部長の新井克明先生は、2003年に赴任して以来、他職種と連携しながら「新処方せん」の作成など様々な改善を試み、その結果を学会などで発表してきました。中小病院の薬剤部ならではの工夫や新たなチャレンジなど、その意欲的な取り組みをお聞きました。



「楽しみながらいいものを創ることが、患者さんのためにもなる」という新井先生と、薬剤部の皆さん。

薬歴表を基に、カレンダーのように 薬剤を一覧できる処方せんを作成

●● 様々な学会での発表に意欲的に取り組まれていますね。

新井 学会発表は日常業務の副産物に過ぎません。

2005年2月に導入した「簡易懸濁法」が良い例で、業務の中で、不便な点や不都合な点などが出てきたら、「こうしてみよう」「ああしてみよう」と考えた結果が発表につながっているだけです。しかし、私たち薬剤師だけが取り組んでも限界があります。他の医療スタッフと上手にコミュニケーションをとりながら問題点を考え、一緒に少しでも良くしていく姿勢が重要です。そして、それこそがリスクマネジメントの根本なのだと思います。

●● 「新処方せん」の考案も、そんな取り組みの一つですか。

新井 そうです。既存の入院処方せんは、処方回数が多くなると見づらくなり、投与開始日と終了日がわかりにくかったり、相互作用や重複処方が見逃されやすいという問題がありました。そこで、2005年4月、実務で処方せんに関わる医局、看護部、医事課、薬剤部の4部署からなる「処

方せん検討委員会」を立ち上げて検討を開始しました。

このときに着目したのが薬歴表でした。薬歴表は1カ月分の処方カレンダーのように一覧できるため、処方期間や併用薬が一目で確認できる



薬剤部長 新井 克明先生

のではないかと考えたのです。プロトタイプをつくり、何度かアンケートをとりながら改良していきました。実際にこの新処方せんによって、重複処方のチェックも行え、処方量の変更も容易になりました。薬剤管理指導にしても、処方が変わったタイミングで病棟に行くことができるなど、メリットは非常に大きいものでした。

システム化“が”必要なのではなく システム化“も”必要

●● 新処方せんの次の取り組みはお考えですか。

新井 新処方せんを基に、オーダーリング入力画面を検討しています。ボタンを押したりウインドウを開かなくても、この処方せんのように一画面上で必要な情報がすべて見られることを目指しています。これについては、7月に開催された日本医薬品情報学会で発表しました。

また、抗生物質適正使用のシステ

ム開発を、現在、入局2年目の薬剤師が中心になって取り組んでいるところです。これは、体内移行率やクリアチニン・クリアランスを確認しながら、医師が最適な抗生物質を選択できるもので、9月の日本医療薬学会で発表する予定です。

●●システム化すると、その知識も必要になりますね。

新井 私たちは医療に必要なアイデアだけ出して、システムはシステムの専門家に任せればいいと思います。結局、システム化“が”必要なのではなく、システム化“も”必要なのだと思います。何が問題なのかを整理して、その上でシステム化すればさらに効率よくなるのではないかという考え方が基本なのです。

学会での発表によって外部との様々な連携も生まれますし、助言をいただいたりすることでアイデアも磨かれます。病院の質の向上が目的ですが、それが最終的に社会への貢献につながれば最高ですね。

新処方せんのアイデアを「お薬カレンダー」に活かす

●●その他にも、現在取り組まれていることはありますか。

新井 処方せんの次の段階として、今度は投薬時のミス防止に着手しました。看護師長のアイデアで、新処方せんと同じ考え方で患者さんごとに

大洗病院 新処方せんの使用例

1234567 処方発行日 平成20年5月分 入院処方箋

オオアライ ハナコ 持参薬は赤字で記載

大洗花 住：薬剤管理指導実施

S23年1月1日 内科 (2病棟) 3病棟 清美

主治医(氏名) 海岸太郎

簡易懸濁法の確認

処方変更にあわせて薬剤管理指導の実施可能

開始日が明確

中止も正確に記載

抗がん剤やリウマトレックスも管理表無しでも適正管理

ワーファリンの減量も明確

注意薬剤の印

持参薬は「持」と記載

定時処方	薬名(規格)	用量	用法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
リビトール	(10) 2T 1x 2回																																	
デキサメタゾン	(10) 1T 1x 1回																																	
アレゲル	(100) 2T 2x 2回																																	
ムコスタ	(100) 2T 2x 2回																																	
テトラサイクリン	(100) 2T 2x 2回																																	
アムロジピンA(5)	1T 1x 1回																																	
リクオトル	(2) 2mg 1x 1回																																	
リクオトル	(2) 2mg 2x 2回																																	
ハネット	(10) 2T 1x 1回																																	
アラジックス	(30) 2T 2x 2回																																	
ワーファリン	(1) 2T 1x 1回																																	
ワーファリン	(1) 2T 1x 1回																																	
ヘパリン	(100) 2T 2x 2回																																	
レントゲンD	(10) 1T 1x 1回																																	
臨時処方	(下から上へ記入)																																	
臨時外用・処置薬	用量 用法																																	
ヒアロン酸	1回 1回 5回																																	
モリス30	(40) 1回																																	

新処方せんの特徴

- ① カレンダーと同じように1~31のマスを設定している。
- ② 医師は処方時に薬品名、規格、用量、用法を記入、開始日のマスに処方日数を記入し、日数分の矢印を引く。
- ③ 持参薬は薬剤師が確認後、赤字で記載し、開始日に「持」と記入する。継続投与なら、医師は日数分の矢印を引く。足りない分は病院の処方として定時日まで線を引く。
- ④ 注意薬剤には、左マスにマーク(糖尿病薬:!, 抗血液凝固薬:#)を記入する。
- ⑤ 中止する薬剤は左欄に「〇~中止」、中止日のマスに「//」と記入する。
- ⑥ 臨時処方は薬品名欄の最下段から上に向けて書き上げる。
- ⑦ 調剤済の薬剤は処方日数の数字を赤い〇で囲む。
- ⑧ 薬剤管理指導をした日は、最上段の「薬剤管理指導」欄に指導区分(1・2・3)を記入し、〇をつける。
- ⑨ 簡易懸濁法のチェック欄を設けている。

「お薬カレンダー」をつくって看護師の配薬に利用しようということになりました。これには、現場ならではの様々なアイデアが散りばめられています。リスクマネジメントは、シンプル・イズ・ベストです。「お薬カレンダー」のよう

に、面倒な手順を覚えることなく誰でもできる工夫が大切だと思います。

このような形で連携していくことは非常に重要だと思いますし、病院全体で考えていくべき課題はまだたくさんあると実感しています。



「お薬カレンダー」は、患者さんの薬剤自己管理にも役立っている

看護師長 黒澤 千枝さん

「お薬カレンダー」は、1週間分の「あさ」「ひる」「よる」「ねるまえ」のポケットがついたカレンダーに薬剤を入れるというもので、市販品を利用して手作りました。薬剤が追加・変更になっても、カレンダー形式のために足したり抜いたりする作業が簡単に、間違いなく行えます。裏面にもポケットをつくり、そこに薬袋や持参薬を入れるようになっています。薬袋には、その患者さんの全医薬品名が印字されているので、疑問を感じたらそれを見て確認できます。

このカレンダーを看護師が配薬に利用し始めたことで、興味をいだき、薬剤を自己管理できるようになった患者さんもうらやまします。また、希望される方には退院される際にこのカレンダーを差し上げると、とても喜んでくださいます。このようなきめ細かなサービスは、中小病院ならではのサービスだと思います。(談)

スペースを取らずハンガーにかかった服を選ぶように薬を探せる。

患者さんの名前部分を、担当の医師ごとに色分け。疑問点を即座に医師の指示簿で確認できる。



後面には薬袋や持参薬を入れるポケットを設置。

次回服用する薬剤は、「ここ」と記したカードを入れて明確に。